

平成29年8月1日発行

# 鯖街道 熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県三方上中郡若狭町熊川

TEL/FAX (0770) 62-0330

熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>



Photo:七夕飾り付け作業を終えてみんなで記念撮影(平成29年7月2日・熊川児童館前にて・宮本会長撮影)

## 短冊に願いを込めて七夕飾り

梅雨の晴れ間の好天に恵まれ、恒例となった七夕飾りが行われました。

前もって、まちづくり委員会に短冊や折り紙を配布し、願い事を書いた短冊や飾り物がたくさん集まりました。短冊には雨対策のパウチ加工をし、飾り物には糸を付けて分類してあります。

笹竹4本を切りに行く間に、H29クリーンアップ&フラワー大作戦「花いっぱい運動」によるケイトウの種まきが行われ、500粒の種をプランターに撒きました。種は本当に小さく細かくて苦情の嵐(笑)でしたが、今年もキレイに咲くことを願って作業しました。

七夕飾り付けは、まちづくり委員をはじめ、子どもたちや家族連れが多く集まりました。「暑い！暑い！」と言いつつも和気あいあいど、短冊を読みながら、途中アイスの休憩を取りながら飾り付けを行いました。藤井氏の前準備のおかげで、手際よく作業が進みました。

賑やかに飾り付けされた笹竹は、西口に2本、中条橋と番所近くにそれぞれ1本立て、涼しげに初夏の風に揺れていました。

その前には、熊川区自主防災会による防災設備の点検が行われました。

## 目次

短冊に願いを込めて七夕飾り	1
寄稿文・防災講演会	2
研修報告	3
事業計画	4
活動報告・話題	5
活動報告・お知らせ	6



## 現状のままでは地域が寂れる

平成29年度熊川区長 宮川直美

学校・家庭・地域が連携して特色ある学校として育んでいます。

区長の用事で区内を自転車で走ることが多くなりました。その時、下ノ町を見て「地域が寂れる」ととても強く感じるのです。上ノ町や中ノ町は、観光の方が歩いておられたり、立ち話をされている区民の方がいらつしやったりします。下ノ町はといえば、ひとつこ一人見当たりません。学校が休みの時は、キャッチボールに興じる元気な男の子もいますが、ふだんは人氣が全くないのです。

先人たちが智慧と力を結集して育んできたふる里熊川・その篤き心を受け継ぎ、改めて次世代に引き継ぐことが、今の我々の責任だと思えます。そのために、まず、後継者である子ども達の通う「学校」を守る

ことが最重要課題ではないかと思うのです。学校は地域の宝です。朝の子どもたちの放送で、区内は目覚めます。流れる音楽や、学校行事で地域は活性化します。

学校・家庭・地域が連携して特色ある学校として育んでいます。



①小学生以下の子どもがいる家庭に住んでいただけるよう、持ち主と連携し環境を

全国からのお客様を招いた伝建の全国大会、子ども達の語り部が脚光を浴び、その後も要請が引く手あまたです。熊川小学校を訪れた他県の教育関係者に、学校長と教育委員会事務局長とが、資料をたくさん準備して対応したそうです。ところが、他県の方はどうもうかない顔。訳をお聞きすると「子どもたちの語り部はいつ聞かせてもらえるのか。」とのこと。伝建大会の評判を聞いて、それを楽しみに来られたらしいのです。

この子ども達を育てずに後継者の育成は図れないと思えます。学校を存続させなければ、熊川は寂れます。学校の存続のためには、子どもを増やすこと、そのためには、次のような条件やお願いをしながら、空き家への若い方の入居や環境整備を促進すればと考えます。

②保護者には熊川小学校の実情をしっかりと説明し、必ず熊川小学校へ通学させていただくこと  
③学校教育へ理解と協力をしていただくこと  
④地域行事には積極的に参画していただくこと  
⑤住民票を移して必ず区民になっ

## 防災講演会「笑って減災!なまず流」

平成29年6月30日(金) 熊川児童館

たかしま災害支援ボランティアネットワーク「なまず」さんによる防災講演会「笑って減災!なまず流」が開催されました。なまずさんは阪神淡路大震災やその後の地震の多発、琵琶湖西岸断層地震の危険性の高まり等を受けて、平成13年にグループを結成され、自助力を高め、防災・減災を促進するための活動をされています。

漫才あり、腹話術あり、クイズあり、模型を使った解説ありで楽しく講演され、いざというとき



また、病院跡地駐車場場で得た収益金で、なまずさんからライト付防災ホイッスルを購入させていただき、区全戸に配布しました。収益金の一部は災害復旧支援に寄付されることになっています。



たかしま災害支援ボランティアネットワーク「なまず」さんによる防災講演会「笑って減災!なまず流」が開催されました。なまずさんは阪神淡路大震災やその後の地震の多発、琵琶湖西岸断層地震の危険性の高まり等を受けて、平成13年にグループを結成され、自助力を高め、防災・減災を促進するための活動をされています。

伝建地区になって20年。人口が減り、子どもが減っています。このままでは熊川宿の存続も危ういものです。皆さん、危機意識を持って、空き家対策をどうするか、人口減少に歯止めをかけるにはどうするか、皆が本気で考え行動していただくではありませんか。

今回の、宮川区長がお話をお聞きし、ぜひ区民の皆さんに聞いてもらいたいと企画しました。

講演会終了後は、自主防災会役員会を開催し、7月23日に開催する自主防災デーの詳細な打合せを行いました。



## 全国伝建協議会 桜川市大会 報告

と き…平成29年5月24日(水)・26日(金)  
と ころ…茨城県桜川市真壁伝建地区  
参加者…5名

報告…宮本哲男

の復旧への強い思いが相まって歴史的建造物の修理が進んでいました。

熊川宿からは、若狭町歴史文化課から職員2名と、住民3名の計5名で参加しました。

総会は委員(伝建地区を有する行政の首長)により実施事業報告や次年度計画・次期開催地等の審議。総会に引き続き、記念講演、職員や住民を対象とした研修や意見交換会です。

私は、平成27年3月に、小山高専横内先生のお世話で、栃木・桐生・真壁の伝建地区の皆さんと、まちづくりをテーマに懇談をさせていただきましたので、現地での研修を楽しみに寄せていただきました。

真壁は真壁城跡(国指定史跡)の中世城下町に起源を有し、近世には在郷町として発展しました。地割りがよく残り、保存地区を中心に99棟の登録文化財が存在し、多様性のある町並み景観を特徴としています。

平成22年6月に重伝建の選定を受け、翌年の平成23年3月に東日本大震災で大きな被害を受けました。しかし、文化庁を始め関係行政の手厚い支援と、住民の皆さん



熊川宿からの参加者



史跡見学「真壁城跡」

文化庁講演では文化科学技官稲垣智也氏から「地震と文化財」をテーマに、文化財の価値に配慮した補強として、意匠を損なわない、可逆的であること、部材を傷めない、区別可能とする、最小限とする、など具体的な耐震補強を写真で示しながらご紹介いただき、文化財耐震補強の考え方について改めて勉強になりました。稲垣技官には今年も熊川宿でお話しいただく予定です。



伝建協議会発行の全国伝建地区を紹介する冊子「歴史の町並み」(平成29年度版)の表紙に田村収氏撮影の熊川宿が掲載されました。

記念講演では、小山高専河東教授から真壁の軌跡と課題について記念講演があり、震災の教訓を活かしながら、新たなまちづくりを目指すための住民組織のネットワーク充実や伝統的建造物の活用と技術者の育成などお話があり、おおいに参考になりました。現地を見ますと、まだ、仮修理の建物も多くありますが、行政の補助率が高い事から立派に修理復元されていました。今後は、近隣の建物も含めた地域が一体となったまちづくりが課題だと感じました。



現地視察「小田部義造の梵鐘」



意見交換会 分科会8組

伝建選定から日が浅い事と、町並みの一連性が整っていない事もあって、「未来の伝建物に向けての取り組み」について論議をしました。全体を通して、現在の真壁は震災被災後の文化庁を始め関係機関の手厚い支援もあって、見違えるような修理が進んでいました。

テーマをお話をされました。稲垣技官は昨年10月に小浜西組と熊川宿の修理物件調査・確認にお見えになり、小浜市の旭座で講演と懇談をされました。

今後、未来を見据えた時に、伝建を活かすため全体を盛り上げていく必要があります。そのため住民の皆さん一人ひとりが高い意識を持ちながらまちづくりに取り組む必要があると感じました。

主催側も気遣う事が沢山あって大変ですが、このような取り組みが住民コミュニティを深めると同時に、それぞれの方のスキルアップにも結び付き地域がまとまっていきます。

桜川市の皆さまには大変お世話になりました。



## 第3次 熊川まちづくりマスタープラン策定

## 【目的】

熊川宿が国の重伝建に選定されて20周年を経て、まちづくりのあり方も変化してきました。平成6年度に第一次、平成18年度に第二次マスタープランを策定し、まちづくりの指針を定め各種事業を展開してきました。

第二次の策定から10年が経過し、改めて見直しを行う時期にきています。今後の熊川宿のあり方をともに考え、熊川住民自身が実行に移していくための方針を策定します。



## 【計画内容】

現在の課題を洗い出し、検討し、実践します。

①どのような町並みにするのか、具体的目標を明確化する。  
②短期・中期・長期のアクションプランの具体的な計画を策定する。

平成29年度  
若狭熊川宿まちづくり特別委員会  
事業計画 (H29.7)

- 5月11日 まちづくり委員会・合同部会  
5月20日 ツーデーマーチ協力  
5月24～26日 第39回全国伝建協議会  
総会・研修会出席(茨城県熊川市)
- 7月 2日 七夕飾り・花いっぱい運動  
7月25日 若狭町伝建地区保存審議会  
7月30日 町並みや前川の清掃  
8月 1日 町並み通信第35号発行  
8月14～15日 街かど陶の灯り展H29  
(熊川宿街かど陶の灯り展実行委員会主催)
- 8月15日 納涼盆踊り(熊川区主催)  
8月25～27日 地域づくり団体  
全国交流研修会香川大会
- 10月1日 第18回 熊川いっぶく時代村  
(熊川いっぶく時代村実行委員会主催)
- 10月下旬 文化庁調査官を囲む会(熊川宿)  
10月中 河内川ダム本体完成  
11月17～19日 全国町並みゼミ  
名古屋有松大会
- 12月 まちづくり委員会・合同部会  
平成30年  
2月 1日 町並み通信第36号発行  
2月 熊川宿まちづくり総集會  
(河内川ダム本体完成祝い)
- 3月 平成29年度 最終まちづくり委員会  
〈臨時〉
- ・第3次熊川マスタープランの策定
  - ・地方創生「がんばる地域」応援事業
  - ・熊川城跡整備
  - ・町並み関連の駐車場、前川、道路、神社の清掃と草刈り、看板の補修等
  - ・ホームページ・SNS情報更新
  - ・若狭町並みに近隣のまちづくり研修・交流会に参加
  - ・あす果の大会などに参加

## 〈5つの柱〉

- (1) 歴史的町並みと周辺景観の保全  
(地区レベルでの歴史的風致維持等)
- (2) 安全で住みやすい居住環境の創造(防災対策の充実等)
- (3) 資源の活用と産業の振興(経済的自立による来訪者の満足度向上、自然資源をもつ河内川ダム活用等)
- (4) 「みんながよくなる」まちづくり  
(資源としての空き家・空き地の具体的再生等)
- (5) 鯖街道ネットワークの構築(日本遺産・鯖街道を活かした京都や奈良、更にはアジアをも視野に入れた他地域との連携等)

## 【実施内容】

指導者として外部講師を迎え、講演会等を実施します。  
適宜会議を開催し、最終的に報告書としてまとめます。

## 空き家を地域の財産に！

## 「がんばる地域」応援事業

若狭町総合戦略課政策推進室  
(地域おこし協力隊)

阪野 真人

愛知県出身で、昨年の4月に若狭町へ移住してきました。こちらに来る前は、北海道で自然保護や地域づくりのNPO法人の運営を行っていました。まだまだ勉強することばかりで、熊川宿の皆さんにはいつもお世話になっていきます。

いくかが、これからの熊川宿の活性化には欠かせません。

この度、一般財団法人地域活性化センターの、地方創生に向けて「がんばる地域」応援事業に採択された企画の説明をさせていただきました。

本事業は、空き家を地域の財産と捉え、空き家でのワークショップや蚤の市、若狭町や熊川宿の特産品を販売する屋台の営業をしてみようというものです。大きな目標は熊川宿の空き家の解消と雇用の創出ですが、空き家を深刻な課題と捉えず、まずは楽しみながら色々試してみようというイメージです。

重要伝統的建造物群保存地区の選定のみならず、近年では日本遺産に認定されるなど、熊川宿の町並みは世界に誇る日本の財産です。しかし一方で空き家の多い地域

でもあります。昨年实现のために開催した蚤の市では、茶摘み用のカゴや桶、食器類など、意外な物を旅行者が購入していききました。昔のものを見たりお互いが会話を楽しんだりできるのも蚤の市の魅力かもしれません。家や蔵の整理をする際には、ぜひ一度ご連絡ください。



蚤の市(昨年の様子)

でもあり、これらの魅力と課題に対してどのように取り組んでいくかが、これからの熊川宿の活性化には欠かせません。





3/3

### タイムリーふくいの収録

(福井テレビ)

鯖街道の今後の生かし方について考えるTV収録があり、翌4日に放映されました。「どう生かす?日本遺産鯖街道と若狭の未来図」のテーマで宮本会長が出演、熊川宿の取組みをお話ししました。撮り直しもなく一発で収録ができ、編集もうまくまとまっています。



2/17

### 伊勢ノ海部屋との交流会

(熊川地区地域づくり協議会)

勢関をはじめとした伊勢ノ海部屋一門が訪れ、髪結いの披露や子どもたちとの取組みが行われ、多くの地区民とふれあいました。また京都祇園から舞妓さんもお見えし、雅な舞いを披露されました。午後からは、グラウンドで雪上大相撲が行われ、多くの家族連れで賑わっていました。



1/18

### 日本遺産大学第3回講座

(晋狭おばま日本遺産大学)

小浜市まちの駅旭産で、若狭町歴史文化課課長水江寿夫氏が「海と都をつないだ若狭藩臣の古墳・熊川宿」をテーマに講演されました。地域の文化財と保存継承の取組みなど大きなストーリーの中で個々の文化財を演出させる日本遺産の構成についてお話しされました。



4/10

### 伝統芸能練習始まる

(熊川舊伝藝芸能保存会)

今年度の初練習が行われ、この日は「つせんの「草づくし」」を練習しました。今年度は手本として、元会長の平尾希典氏が唄ったつせんの音頭のCDを希望者に配ることにしました。毎月10日の練習会では、そのCDに合わせてみんな唄っています。



3/20

### 上段にモミジ等を植栽

(熊川区・まちづくり委員会)

嶺南病院跡地は、街道沿いを駐車場、上段を広葉樹広場として整備中です。この日は、急遽決めた植栽のお手伝いに、子どもさんを含むたくさんの方に参加していただき、手分けして植えることができました。後日、駐車場奥から広場へ登る遊歩道も整備されました。



3/8

### 備中町並みの皆さんが研修

(まちづくり委員会対応)

倉敷町家トラストを始めとするネットワークの皆様が、お見えになりました。道の駅で合流し、まる志んさんと昼食後、お店をお借りしてまちづくりの取組みについてお話しさせていただきました。その後、皆さんが興味を持たれた見送り幕「綴織百子遊戯図」をご覧いただきました。



6/17

### ホテル観賞と陶のガラスへ

(熊川地区地域づくり協議会)

恒例のホテル観賞会が開かれ、大勢の家族連れが熊川公民館へ集まりました。フォークグループ「おっさんず」のミニコンサートや焼き鳥などの屋台が賑わっていました。陣屋跡地へ続く路地沿いには陶器の灯りが並び、ピオトープには数多くの蛸が乱舞していました。



5/2

### 小水力発電機点灯式

(若狭町・熊川区)

前川を利用した小水力発電機が設置されました。ライトアップされたのは、道の駅熊川宿の看板、宿場館、西口の熊川宿モニュメントです。森下裕町長や熊マツバの高畑会長、有馬工場長ご臨席のもと、点灯式典が行われました。発電機と制御装置の設備について説明を受けました。



4/17

### La Festa Primavera 2017

(熊川区対応)

今年もクラシックカー50台あまりが熊川宿へやってきました。堺正章さんや横山剣さんなど有名人もお見えになり多くの方で賑わいました。熊川小の子どもたちは手作りパンフレットを配ったりインタビューなどを行っていました。一行は三方五湖レインポーラインへ向かわれました。



2/26

## まちづくり総集会

(熊川区・若狭熊川宿まちづくり特別委員会)



伝達選定20周年記念事業の報告と協力お礼の挨拶、河内川ダム建設工事共同企業体様への感謝状の贈呈が行われました。

鯖街道生き生きプロジェクトの取組み、今後のまちづくり活動の予定が話し合われました。

懇親会では、オードブルに加え、地元産の焼き椎茸、鯖寿司、蒟蒻の田楽が大人気でした。

5/3

## 白石神社祭礼と山車巡行

(熊川区・白石神社祭礼実行委員会)



宵宮では、子どもたちが全6曲の祭囃子を奉納しました。

本日は天候にも恵まれ、午後から山車が巡行しました。曳き手はやや少なめで大変でしたが、子どもたちは祭囃子を元気に囃しました。ふるさと熊川へ帰郷されて山車をひかれる方も見られました。

5/6

鯖街道食文化  
展示施設 村田館オープン

(若狭町・熊川区)



京都 祇園の老舗料亭「菊乃井」主人村田吉弘さんの祖父の実家が、若狭地方の食文化を紹介する施設として公開されました。

オープニング式典には、村田古弘氏や森下町長、北嶺南振興局長にご臨席いただき、村田氏による若狭の食文化に関する講演会も開催されました。

5/20

## ツデーマーチおもてなし

(熊川区・まちづくり委員会ほか)



真夏を思わせる好天のもと、日本遺産「鯖街道熊川宿」20キロ・40キロコースのウォーカーに「長採鍋」約700食をもてなし歓迎しました。

参加者たちは休憩の後、完歩を目指し元気に歩みを進めていました。

6/1

## 火の用心 夜回り警戒

(熊川老人クラブ)



「熊川から絶対に火事を出さない、出させない」を合言葉に、熊川老人クラブが主体となって防火啓発の夜回り警戒が行われ、子どもたちを含む多くの区民が参加しました。

これからは雨の日を除いて毎月1日夜7時から行われます。

6/20

## 老舗料亭「菊乃井」研修

(熊川宿おもてなしの会)



「村田館」の完成にちなんで、「菊乃井本店」へ出かけました。

四季の情感豊かな料亭の美しい歴史をもつ座敷で、古の桃山人を偲びながらいただく懐石料理は、まさに伝統に培われた京料理の神髄と言えます。目で楽しみ、舌で楽しむ、絶品の京料理に2時間はあっという間でした。

午後は、熊川とのつながりを求めて、熊川出身の西家 藤井富雄さん宅へ寄せていただきました。友禅染めを体験し、夏らしいコースターを作りました。

病院跡地駐車場  
ご利用について

普通車：54台（原則大型車進入不可）  
嶺南病院が移転し、その跡地が駐車場として整備されました。

この駐車場は、町並み景観の維持ならびに環境美化のための協力金を、お一人100円を日安にお願いしています。

## あとがき

今号は、活動報告やイベント記事をたくさん掲載しましたが、載せきれなかったことをここで紹介いたします。

1月19日、宮本会長始め役員3名が、あすの福井県を創る協会の「新春始め」に出席しました。丸岡町「ひっぱりたこ座」の公演や抽選会を楽しませていただきました。

4月20日、防災情報誌「地域防災」に掲載されている「みんなで作る地域の防災活動プラン」の取材を受け、6月号に掲載いただきました。

熊川区が取組んでいる活動を4ページにわたり丁寧に紹介されています。

5月11日、今年度初のまちづくり委員会が開催されました。今年度の主な課題として、第3次熊川まちづくりマスタープランの策定、地方創生「がんばる地域」応援事業、空き家を活用した交流人口の拡大と新たな観光産業創出などが計画されています。

現在まちづくり委員会では、数件の移住希望者と交渉を進めています。また行政と協力しながら、古民家活用やシェアオフィスなど、いろいろな観点や方法で対策を検討中です。今後とも皆様のご支援、指導をよろしく願っています。

(編集委員)